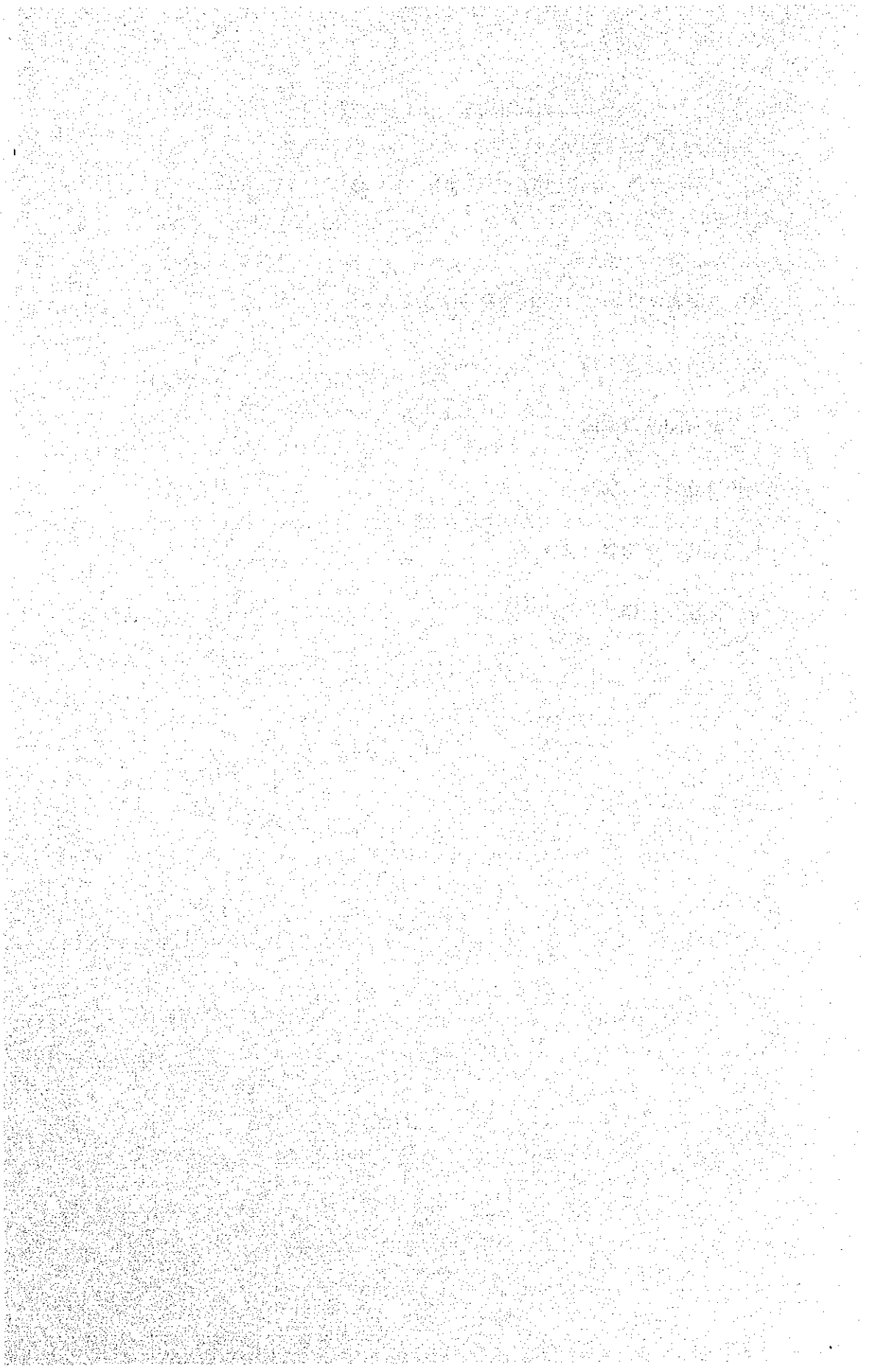


資 料 編

1. 日本のプロジェクト投入資金実績
2. 専門家派遣実績
3. 調査団派遣実績
4. 研修員受入実績
5. 主要供与機材リスト
6. 討議議事録



1. 日本のプロジェクト投入資金実績

(1) 家畜衛生改善計画

(単位：千円)

年度	項目	専門派遣経費	調査派遣経費	研究員受入経費	機材費		機材供与経費	その他経費	合計
					単独機材費	携行機材費			
昭和51		0	6,197	1,250	0	0	0	0	6,197
52		14,810	1,987	1,800	111,950	1,611	113,561	727	131,085
53		65,864	3,307	1,250	62,927	2,995	65,922	7,011	142,104
54		67,591	4,224	2,000	58,362	3,738	62,100	10,508	144,423
55		72,745	4,114	3,700	88,240	1,591	89,831	13,347	180,037
56		70,873	4,077	3,600	104,487	3,396	107,883	11,243	194,076
57		67,103	2,986	3,500	84,517	4,525	89,042	38,503	197,634
58		64,276	11,514	2,400	61,939	3,957	65,896	49,675	191,361
59		31,534	2,181	3,000	97,025	3,163	100,188	8,321	142,224
60		22,054	656	2,250	54,036	3,528	57,564	10,238	110,512
61		2,742	0	0	0	239	239	268	3,249
計		499,592	41,243	24,750	723,483	28,743	752,226	149,841	1,442,902

各年度とも当該年度予算、繰越予算を合わせた支出実績値である

⊗現地業務費、応急対策費、基盤整備事業費、視聴覚教材整備費、普及効果測定費、特殊案件実施費等を含む

(2) 第三国研修

年 度	実施経費(千円) [*]	機械供与(千円)	備 考
昭和56	6,779		
57	13,321	35,971	ビデオシステム 温調装置、恒温水槽等
58	15,677		
59	19,522		
60	12,854		
小 計	68,153	35,971	
合 計	104,124		

* カウンターパート受入経費を含まない。

2. 専門家派遣実績

A. ① プロジェクト住所 Foot-and-Mouth Disease Vaccine Production Center, Pakchong, Nakhonrachasima, Thailand

② 派遣専門家 延 39 名 (長期 13 名、短期 26 名)

氏名	等級	日本の所属	指導科目	派遣期間	派遣時期												
					52	53	54	55	56	57	58	59	60	61			
本橋 常正	1-2 特-2	日本生物科学研究所	チームリーダー兼 ワクチン製造、検定	5年1カ月、13日		3/7											3/5 3/28
岸 茂	特-2	(元日本生物科学研究所)	ワクチン製造	2年		2/28		2/21									3/15 3/28
徳井 忠夫	2-1	家畜衛生試験場	ワクチン製造	2カ月、2年、 3カ月、13日			3/23 5/22	5/9			5/8	7/16 10/15				1/17 4/16 5/3	5/2
難波 功一	2-1	家畜衛生試験場	ワクチン製造	1年7カ月、3カ月 1年			6/22 9/21				3/9 5/9					10/20	1/19
倉田 功	4	日本生物科学研究所	ワクチン製造	3カ月、2カ月													
山口 成夫	2	家畜衛生試験場	ワクチン製造	3カ月													
古内 進	2-1	家畜衛生試験場	ワクチン検定 ワクチン製造	2年3カ月			5/11			5/10				8/7 11/6			
井上 剛光	4	動物医薬品検査所	診断	1年2カ月		2/28	5/4										
津田 知幸	5-2 4	家畜衛生試験場	診断、ワクチン製造	1年3カ月、3カ月								7/16	10/15		12/2	3/1	
平原 正	2	微生物化学研究所	ワクチン検定	3カ月						4/9 7/8							
高橋 英司	2-2	家畜衛生試験場	ワクチン検定	2年						4/24		4/23					
山崎 康人	5-2	家畜衛生試験場(研究生)	ワクチン検定	1年											5/3	5/2	
徳田 悟一	1-2	家畜衛生試験場	診断	3カ月		2/28 5/31											
杉森 正	1	家畜衛生試験場	診断	3カ月		9/1 11/28											
後藤 義之	2-2	家畜衛生試験場	診断	1年									9/21		9/20		
坪井 孝益	5	家畜衛生試験場	診断	3カ月											12/2	3/1	
矢沢 肇	5	日本生物科学研究所	実験動物	3カ月、3カ月			6/22 9/21				3/9 6/8						
唐沢 茂	5	日本生物科学研究所	実験動物	3カ月				7/4 10/3									
船橋 誠之助	特	日本生物科学研究所	機器保守	1カ月、2カ月、1カ月		9/9 10/8	7/22 8/21										
山田 輝次	1	三光医理化株式会社	機器保守	18日、14日				1/13 1/4 6/27 7/11									

氏名	等級	日本の所属	指導科目	派遣期間	派遣時期										
					52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	
望月良夫	1-2	(元日本軽種馬登録協会)	機器保守	10カ月		2/28	1/11								
蛭田輝男	4	セントラル工業株式会社	機器保守	1年3カ月、6カ月		10/3	12/25		3/27 9/26						
大内守男	5	大西熱学株式会社	機器保守	1年						4/16 7/15			9/21	9/20	
塩田邦男	5	日立製作所	機器保守	3カ月							1/11 1/24				
				3カ月											
				13日											

B. ① プロジェクト住所 Department Livestock Development, Phya Thai Road, Bangkok 4, Thailand

② 派遣専門家 延24名(長期2名、短期22名)

氏名	等級	日本の所属	指導科目	派遣期間	派遣時期										
					52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	
緒方宗雄	2-1、1	畜産局衛生課	アドバイザー	3-5カ月 1-5カ月		3/28 6/15	10/14 11/30								
熊谷哲夫	1	家畜衛生試験場	アドバイザー	19日、19日、23日			1/9 1/28		3/15 4/3 9/5 11/8	12/18	1/14	8/7 8/26		3/10 3/28	
	特	農工大学		27日、19日、13日							2/22 3/6				
岡本哲男	2-1	動物検疫所	アドバイザー	12日							12/3			3/31	
長野整一	1-1	動物検疫所	アドバイザー	2年4カ月										3/26 3/25	
倉益茂実	特	日本生物科学研究所	アドバイザー	1年							3/9 3/20				
高松泰人	特	日本生物科学研究所	アドバイザー	11日							11/14 11/25				
大東幸人	4	㈱パンフィックコンサルタント	施設設計	11日								3/13 5/11			
大沢清助	3	㈱パンフィックコンサルタント	施工管理	2カ月								3/13 10/18			
山口本治	2	中央畜産会	家畜衛生	7カ月								8/6 9/9			
菊野達郎	3	中央畜産会	家畜衛生	1カ月								8/6 9/9			
信藤謙蔵	特	全国農業協同組合連合会	第3国研修講師	1カ月						2/21 3/20					
杉村崇明	1	家畜衛生試験場	第3国研修講師	1カ月						12/3	2/2				
倉田一明	1	動物医薬品検査所	第3国研修講師	2カ月							3/11 3/26				
高取一郎	1	家畜衛生試験場	第3国研修講師	15日								12/6 3/5		2/3 2/23	
清水悠紀臣	1	家畜衛生試験場	第3国研修講師	3カ月、2013								2/5 2/24			
稲葉右二	1	家畜衛生試験場	第3国研修講師	19日								12/20 3/16			
				3カ月											

C. ① プロジェクトサイト住所 Diagnostic Laboratory Center, Tung Song, Nakhonsithanmarat, Thailand

② 派遣専門家 延21名(長期10名、短期11名)

氏名	等級	日本の所属	指導科目	派遣期間	派遣時期											
					52	53	54	55	56	57	58	59	60	61		
岡本哲男	2-2	動物検疫所	チームリーダー 兼 疫学	1年1カ月		2/28	3/31								10/13	1/12
田村豊	6-1	動物医薬品検査所	疫学	1年、3カ月			7/5	7/4								
宇田川哲	特-2	(元千葉県家畜衛生研究所)	チームリーダー 兼 細菌学	2年			5/11			5/10						
鈴木達郎	4	千葉県家畜衛生研究所	細菌学	1年		2/28	2/27									
橋本和典	1	家畜衛生試験場	細菌学	2.5カ月		9/9 11/28			6/17	6/16						
坂之上義弘	4	(伊地知種鶏場)	細菌学	1年						6/23	3/1					
小泉俊二	1	群馬県環境衛生課	細菌学	8カ月						11/20	2/19					
酒井忠行	3	動物検疫所	細菌学	3カ月									2/25 5/24			
三島和洋	3	動物検疫所	細菌学	3カ月					6/7				3/1			
岸茂	特-2	(元日本生物科学研究所)	チームリーダー 兼 ウイルス学	2年9カ月												
中川秀次	3	動物医薬品検査所	ウイルス学	1.5カ月			8/29 10/12									
藤原若彦	2-2	岡山県農林部畜産課	病理学	5カ月		4/30 10/28										
山下静	特-2	(元広島県畜産試験場)	病理学	1年			5/11	5/10								
内村益雄	特-2	(元宮崎県都城家畜保健衛生所)	病理学	3年9カ月				6/17							3/1	
井上勇	1	埼玉県大宮家畜保健衛生所	病理学	3カ月						4/9 7/8						
坂本一美	5	福井県家畜保健衛生所	病理学	3カ月							1/29 4/28					
角田清	特-2	(元家畜衛生試験場)	チームリーダー兼 寄生虫学	1年								4/8			4/7	
西川洋和	4	JICA特別囑託	寄生虫学	2年		2/28		2/27								
大永博資	2	日本生物科学研究所	寄生虫学	3カ月								12/3	3/1			
倉田一明	1	動物医薬品検査所	アドバイザー	1カ月						4/9 5/8						

3. 調査団派遣実績

1. 実施調査チーム：51.9.22～10.16

氏名	担当業務	所 属	備 考
沢田 実	総 括	農林省動物医薬品検査所豚コレラ予防液検査室長	家畜衛生分野での技術協力の基本計画の策定現地調査
千田 英一	家畜防疫	農林省動物検疫所企画調整課長	
伊沢 久夫	ワクチン製造	北里研究所附属家畜衛生研究所長	
大森 伸夫	家畜疾病診断	農林省畜産局衛生課	
藤田 陽偉	業務調整	JICA農開部畜開課課長代理	

2. 実施協議チーム：52.2.17～3.3

氏名	担当業務	所 属	備 考
緒方 宗雄	総 括	農林省畜産局衛生課課長補佐	討議議事録の署名
山本 公明	協力企画	農林省農林経済局国際協力課協力官	
藤田 陽偉	業務調整	JICA農開部畜開課課長代理	

3. 第1回計画打合せチーム：52.8.2～8.14

氏名	担当業務	所 属	備 考
熊谷 哲夫	総 括	農林省家畜衛生試験場研究第二部長	R/Dに基づく事業実施計画の協議
岡本 哲男	家畜衛生	農林省動物検疫所名古屋支所調整指導官	
小野 英男	業務調整	JICA農開部畜開課	

4. 巡回指導チーム：53.12.3～12.12

氏名	担当業務	所 属	備 考
柴田 重孝	総 括	日本学会会議員	プロジェクトの進捗
熊谷 哲夫	口 蹄 疫	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部長	状況の調査
緒方 宗雄	家畜衛生	農林水産省畜産局衛生課課長補佐	事業計画の協議
佐藤 よし江	業務調整	JICA農開部畜開課	

5. 第1回エバリュエーションチーム：54.11.14～11.28

氏名	担当業務	所 属	備 考
山本 格也	総 括	地方競馬全国協会理事	事業実績、当初目標の達成度評価、要請があった場合の協力延長の妥当性等について協議
杉森 正	口 蹄 疫	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部口蹄疫免疫研究室長	
岡本 哲男	家 畜 衛 生	農林水産省動物検疫所名古屋支所四日市出張所長	
武田 雄八	業 務 調 整	JICA農開部畜開課	

6. 第2回計画打合せチーム：55.11.21～12.4

氏名	担当業務	所 属	備 考
藤崎 優一郎	総 括	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部長	
米村 弘	口 蹄 疫	農林水産省動物検疫所調整指導官	
間 邦彦	家 畜 衛 生	農林水産省畜産局衛生課課長補佐	
武田 雄八	業 務 調 整	JICA農開部畜開課	

7. 第三国研修事前調査チーム：56.8.26～9.4

氏名	担当業務	所 属	備 考
芥川 龍雄	総 括	JICA研修事業部研修第二課長	要請の背景・内容の確認
芦田 浄美	家 畜 衛 生	農林水産省家畜衛生試験場	
小林 雅彦	協 力 政 策	外務省技術協力課	
藤田 陽偉	協 力 企 画	農林水産省経済局国際協力課	
河野 愛一郎	業 務 調 整	JICA研修事業部研修第一課	

8. 第2回エバリュエーションチーム：56.11.24～12.11

氏名	担当業務	所 属	備 考
小山 国治	総 括	競走馬理化学研究所理事	延長R/D期間中の事業実績、当初目標の達成度評価、要請のあった場合の協力延長の妥当性等について協議
徳田 悟一	口 蹄 疫	農林水産省家畜衛生試験場海外病研究部口蹄疫診断室長	
岡本 哲男	家 畜 衛 生	農林水産省動物検疫所企画調整課長	

氏名	担当業務	所 属	備 考
井上 剛 光	協 力 企 画	農林水産省動物医薬品検査所主任検査官	
武田 雄 八	業 務 調 整	JICA農開部畜開課	

9. 第三国研修実施協議チーム：57.1.19～1.28

氏名	担当業務	所 属	備 考
藤 崎 優一郎	総 括	農林水産省家畜衛生試験場	事前調査結果をふま
倉 田 一 明	家 畜 衛 生	農林水産省動物医薬品検査所	え、R/D署名交換
大久保 政 幸	協 力 政 策	外務省技術協力課	と準備の推進援助

10. 第3回計画打合せチーム：57.9.15～9.30

氏名	担当業務	所 属	備 考
河 野 彬	総 括	農林水産省畜産局衛生課課長補佐	R/D延長による事
古 内 進	口 蹄 疫	農林水産省家畜衛生試験場研究第二部主任研究員	業計画の協議
佐 野 博 彦	家 畜 衛 生	農林水産省畜産局衛生課国際事務係長	
武田 雄 八	業 務 調 整	JICA農開部畜開課	

11-1. 第3回エバリュエーション第1次チーム：58.8.6～9.9

氏名	担当業務	所 属	備 考
山 口 本 治	口蹄疫ワクチン普及状況調査	中央畜産会	総合評価用基礎資料
菊 野 達 郎	重要家畜畜疾調査	"	の収集

11-2. 第3回エバリュエーション第2次チーム：58.9.3～9.18

氏名	担当業務	所 属	備 考
今 井 正 夫	総 括	農林水産省畜産局衛生課薬事室長	延長R/D期間中の事業実績、当初目標の達成度等の評価と協力延長の必要性及び妥当性の協議・検討
水 野 喜 夫	口 蹄 疫	農林水産省家畜衛生試験場東北支部第二研究室長	
吉 村 英 朗	家 畜 衛 生	農林水産省畜産局衛生課国内防疫第一係長	

氏名	担当業務	所 属	備 考
銚之原 節 夫	業務調整	JICA農開部畜開課	

12. 小口無償実施協議チーム：58.12.9～12.18

氏名	担当業務	所 属	備 考
本 橋 常 正	製 造 技 術	日本生物科学研究所常務理事	事業計画細部の打合せ
新 垣 和 成	業務調整	JICA無償資金協力部業務課	事務処理調整

13. 実施協議チーム：59.1.25～2.3

氏名	担当業務	所 属	備 考
緒 方 宗 雄	総 括	JICA国際協力専門員	口蹄疫プロジェクト
徳 井 忠 史	口 蹄 疫	農林水産省家畜衛生試験場海外病研究部	R/D延長による事業
栗 城 俊之助	業務調整	JICA農開部畜開課	業計画の協議

14. 巡回指導チーム：61.3.18～3.25

氏名	担当業務	所 属	備 考
小 野 英 男	業務調整	JICA農開部畜開課長	口蹄疫プロジェクト 総合評価専門家と協力し、当該センターの現状・要望等の把握と、関連事項の今後の動向についての協議・検討

15. 巡回指導チーム：61.4.15～4.20

氏名	担当業務	所 属	備 考
緒 方 宗 雄	総 括 兼 生	JICA国際協力専門員	現地提起問題に対する指導、プロジェクトの現状・要望の把握
水 野 隆	家 畜 衛 生 業務調整	JICA農開部畜開課	

16. 第三国研修エバリュエーションチーム：61.7.14～7.25

氏名	担当業務	所属	備考
石崎光夫	総括	JICA研修事業部管理課長	事業実績、当初目標の達成度等の評価
小野寺節	研修評価	農林水産省家畜衛生試験場海外病研究部免疫研究室長	
矢ヶ崎忠夫	協力評価	農林水産省畜産局衛生課課長補佐	
北中真人	研修管理	JICA研修事業部管理課	

4. 研修員受入実績

家畜衛生改善計画

分野	氏名	来日	日	帰国	日	月数	所属
ワクチン製造	Pichit Makarasen	51. 9. 1		52. 4. 30		8	口蹄疫ワクチン製造センター
"	Kamol Awaiwanonthe	"		51. 12. 13		3.5	"
ゲル製造	Tonglee Kuant	52. 11. 3		53. 1. 31		3	"
家畜衛生	Vises Prasert	52. 12. 6		52. 12. 20		0.5	畜産振興局
"	Prapahd Neramitmansook	"		"		0.5	"
"	Aree Wudhiprecha	52. 4. 14		52. 11. 11		7	口蹄疫ワクチン製造センター
"	Peerapol Euswas	52. 4. 17		"		7	カセサート大学
"	Niroje Valanapoom	53. 4. 18		53. 10. 9		6	家畜衛生センター
"	Uma Wongsongsarn	53. 10. 1		53. 10. 14		0.5	畜産振興局
免疫学	Ab Kongthon	"		54. 3. 31		6	口蹄疫ワクチン製造センター
家畜衛生	Suwit Pollarp	54. 6. 20		54. 6. 30		0.3	家畜衛生センター
病理学	Wichit Wongwatcharad	54. 11. 1		55. 4. 30		6	"
家畜衛生	Smarn Pipithkul	54. 11. 15		55. 2. 14		3	畜産振興局
寄生虫学	Pracha Asavametha	55. 3. 31		55. 9. 30		6	家畜衛生センター
家畜衛生	Tim Bhannasiri	55. 3. 16		55. 3. 28		0.5	畜産振興局
"	Vises Prasert	"		"		0.5	"
"	Thavaucal Sakpuaram	55. 5. 8		55. 10. 31		6	"
実験動物	Tarika Pramoolsinsup	55. 9. 10		56. 3. 9		6	口蹄疫ワクチン製造センター
細菌学	Wantanee Mahittanun	55. 9. 24		"		5.5	家畜衛生センター
機器保守	Kwanchai Tapavarapluek	56. 1. 9		56. 7. 7		6	口蹄疫ワクチン製造センター
ウイルス学	Ratree Yuadyong	56. 2. 27		56. 8. 25		6	家畜衛生センター
ワクチン製造	Panun Sricharoen	56. 3. 26		56. 9. 25		6	口蹄疫ワクチン製造センター
家畜衛生	Nitaya Dilockiat	56. 5. 21		56. 11. 20		6	畜産振興局
ウイルス学	Wilai Linchongsubong	56. 11. 26		57. 5. 25		6	口蹄疫ワクチン製造センター
"	Wacharee Chinsawadpun	"		"		6	"
血清診断学	Wongkwan Jitunpong	57. 1. 14		57. 7. 14		6	家畜衛生センター
病理学	Pipol Suksaithaichana	"		"		6	"
ワクチン検定	Suneejit Kongthon	57. 3. 18		57. 9. 17		6	口蹄疫ワクチン製造センター
家畜衛生	Wimon Pariyakanok	57. 5. 6		57. 11. 5		6	畜産振興局
ワクチン製造	Payon Sinuwonkat	57. 9. 23		58. 5. 31		8	口蹄疫ワクチン製造センター

分野	氏名	来日日	帰国日	月数	所属
ウイルス学	Suchade Suthirai	58. 1. 13	58. 7. 12	6	口蹄疫ワクチン製造センター
細菌学	Wasama Boonyanurak	"	"	6	家畜衛生センター
疫学	Sanon Srinunthapant	"	"	6	"
ウイルス学	Somjay Kamolsiripichaip	58. 10. 30	59. 10. 29	12	口蹄疫ワクチン製造センター
免疫学	Wongchan Khunin	58. 11. 3	59. 4. 29	6	"
ウイルス学	Chongmas Chaipoca	59. 1. 28	59. 7. 27	6	家畜衛生センター
"	Nonglak Cholsindhu	59. 8. 23	60. 9. 18	13	口蹄疫ワクチン製造センター
"	Busanee Chanprasut	59. 10. 25	60. 6. 4	6	"
ワクチン検定	Nopporn Patanaprasith	"	"	6	"
"	Jarunee Satra	60. 8. 8	61. 8. 7	12	"
ワクチン製造	Montri Montmaturapoj	"	61. 3. 15	7	"
家畜衛生	Thinakon Chandarkeo	"	60. 8. 24	0.5	"
機器保守	Panu Sunama	61. 1. 28	61. 4. 30	3	"
合計	延 43 名			233.3	

第3回研修

氏名	来日日	帰国日	日数	所属
Suthum Punyaupapat	57. 8. 22	57. 9. 12	21	口蹄疫ワクチン製造センター
Vises Prasert	"	"	21	畜産振興局
Wiraret Wongsaree	58. 9. 18	58. 9. 30	12	技術経済協力局
Pinit Suphavitai	59. 11. 5	59. 11. 17	12	畜産振興局
Sopon Akhangcharoen	62. 2. 19	62. 3. 7	16	"
合計	延 5 名		82	

5. 主要供与機材リスト

(1品 50 万円以上に限る)

昭和 52 年度

品 名 お よ び 仕 様	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)
自動血球計算機 自動希釈装置付、220 V	1		1, 200, 000
ドラムローラ	1		574, 100
高速冷却遠心機 トミー、RS-20-2, 20,000 rpm, 43,000 G, 220V	1		1, 150, 000
蛍光顕微鏡 オリンパス BHF-342, Obj.: 10X, 20X, SPL40X SISFL 100X(oil) Ocl.: BIWF10Xpaired	1		679, 000
コールドトーム CM-41, O-20 μ , O-30 $^{\circ}$ C,	1		1, 485, 000
真空ロータリー VRX-22, 500 ml	1		1, 665, 000
自動メス研磨機 MN-72, メス長 8-25 cm,	1		664, 000
パラフィン分注機 Tissue-Tek II.	1		1, 941, 660
冷 蔵 車 トヨエース RY12R-JRB3, ガソリンエンジン 1587cc, 64HP. 4速,	1		2, 770, 000
トラック ミツビシ・キャンター T206CH	1		1, 195, 000
ジ ー プ ミツビシ H-J 38	1		2, 004, 000
ステーションワゴン ミツビシ、ギャランバン H-A 121 VJ	4	1, 225, 250	4, 901, 000

昭和 53 年度

品名および仕様	数量	単価 (円)	金額 (円)
クリンベンチ 日立、CV-21、ガスバーナー、UVランプ付	1		1,748,000
冷却遠心機 トミー CD100R, 15ml × 32, 50ml × 4付	1		590,000
分光光度計 日立、100-21, セル: 5mm, 10mm ビーム: UV-vis, デジタルプリンター及サンプル スリッパ付	1		1,675,000
洗瓶機 立花、500ml, 100ml 両用 エアフィルター、コンプレッサー付	1		4,810,000
クリンベンチ 日立、CCV-1300EC	1		2,157,000

昭和 54 年度

品名および仕様	数量	単価 (円)	金額 (円)
低温恒温機	1		1,110,000
恒温乾燥機 R-12-S, 4ドラム付	1		970,000
遠心機ローター トミー 17N, 500ml × 6	1		515,000
ボールフィルター配管	1		678,000
助材フィルター 日東バイオニヤ、VS-2、改良型	1		1,500,000
細胞用連続遠心機 スチム滅菌式、ブレーキ付	1		1,350,000
ボールフィルター SMS, 2G715	1		1,050,000

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
液体窒素ストッカー DALIC-350,	1		3,150,000
ワクチン貯蔵タンク 500 L, プロペラ付、窓付	4	1,735,000	6,940,000
ゲル滅菌タンク 500 L, モーター・プロペラ付、窓付	1		2,500,000
アルゴン溶接機	1		577,500

昭和 55 年度

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
診療車 トヨタハイエース、アニマルクリニックカー RH32RV-JRE,	1		2,496,000
恒温水槽 光研社、10連スターラー付	1		1,250,000
分光光度計 100-4112、195~800	1		1,866,000
遠心機 トミー、CD-100R、ローター付	1		820,000
高架水槽用ポンプコントローラー	1		750,000
遠心機 トミー、CD-100R			540,000
発電機 配電盤、タンク、エンジン、切替機付	1		6,900,000
オイルヒーター RBH-3CF3 kW	1		1,500,000
オイルヒーター C-1B, バーナーユニット込	1		1,350,000
攪拌装置 ワクチン不活化タンク用	2	1,300,000	2,600,000

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
攪拌装置 ワクチン貯蔵タンク用	1		850,000
複写機 リコー-DT1600、トランス付	1		875,000
卓上型総合計測制御記録装置 丸菱、PH、DO、記録計	2	1,100,000	2,200,000

昭和56年度

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
低温恒温室 NTS-10、10坪、0°~室温	1		976,210
蛍光顕微鏡 オリンパス BHT-342	1		767,000
ドラフトチャンバー 三光 MF-02	1		643,500
天秤 三光 200SM, 0.01mg	1		720,000
超遠心分離機 日立、55P-72	1		5,100,000
ローター 日立 RPS-27-2, RPS-40T,	1		4,298,000
CO ₂ 孵卵機 平沢、CO ₂ 濃度調節方式	1		1,250,000
恒温水槽 三光、スターラー付	1		1,015,000
倒立顕微鏡 オリンパス IMT-201	1		529,100
高圧滅菌機 三光、乾燥付	1		4,757,000

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
ボイラー ヤマナシ、60型、全自動	1		1,178,050
冷蔵車 トヨタレフリジレータートラック RU20R-QRBT3、ガソリンエンジン	1		3,763,900

昭和57年度

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
フンダフィルター 石川島播磨重工、濾過面積5㎡	1		12,900,000
プレコートタンク 東洋濾紙、DV-550-ST, 550L	1		2,650,000
真空凍結乾燥機 三光、F-10, 220V	1		1,500,000
冷却遠心機 トミー、CD100R 200V	1		555,000
マルチフォー LKB	1		2,300,000
カラムクロマトグラフィー アトー、ACC-103	1		2,500,000
密度勾配作成抽出器 日立 DGF-U	1		875,500
冷却高速遠心器 トミーRS-18Ⅲ, ローター(17N, 9N, 4N)	1		2,565,000
濃縮タンク 三光、3000L	1		9,550,000
ウイルスストックタンク 三光、2000L	1		7,500,000

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
冷却装置 チラーユニット、クーリングタワー込	1		6,500,000
純水タンク 三光、1000L	1		1,450,000
血清処理タンク 三光、200L、ジャケット式	2	1,100,000	2,200,000
廻転培養装置 三段式 220V	1		580,000

昭和 58 年度

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
ステーションワゴン 三菱ギャラン、ガソリン、右ハンドル クーラー付、スペアパーフ 10%	2	1,445,000	2,890,000
クロロホルム処理タンク 本体 1000L、配管、コントロールボックス付	1		10,590,000
脱線機 反転式攪拌機付	2	750,000	1,500,000
ELISA リーダー 日製産業、コロナ 2 波長光度計 (MTP-12 Auto) 専用プリンター (M-12 PA)、トランス (220V/1000) 各種プレート付	1		3,450,000
限外ろ過機 アミコン、フォローファイバー式	1		1,510,000
電子天秤 メトラー、デジタル、グロッケ付	1		585,000
血清分離機 ウェストファリア、BTA3-00-104	1		2,800,000

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
攪拌機 帝国、40-6, 380V	1		670,000
サーマル・マス・フロー ウエシマ、丸菱タンク用	1		620,000
ビデオセット ナショナル、カメラ、VTRシステム	1		578,000
小型トラック イスズ、ジーゼル、KBD-21UA 1951cc	1		877,000

昭和59年度

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
クリーンベンチ 日立 CCV-1311, 220V	2	1,900,000	3,800,000
回転培養セット 平沢 RAT-4	1		530,000
紫外吸収計 東洋 UV-600、ダブルビーム、目記	1		1,150,000
乾燥滅菌器 セマト SC-81-2	1		540,000
クロマトチャンパー イスコ、FC-820	1		1,150,000
分光光度計 日立100-40, 195-850mm マイクロセル、シーケンシャルセル SHIPPINGセルユニット付	1		2,050,000
ELISA用オートドロップ フロウ 7721400	1		980,000

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
非常用発電装置 明電舎、ZXN150FB 発電機：3相、4線、220V 125KVA(100kW) 50Hz 制御盤：メタクラ型 エンジン：ディーゼル、4サイクル水冷	1		3,950,000
MPボイラー 平川ミニー 800Z、定格換算発熱量1,000kg/H 最高使用圧力10kg/cm ² 、使用燃料C重油 燃料使用量62kg/H	1		8,935,000
蒸気減圧装置 7kg/cm ² 2kg/cm ² 減圧弁、玉形弁、ストレーナー、圧力計、安全弁	1		1,460,000
蒸気フィルター ドレンノズルセット共、流量900kg/H、濾過精度5μ	1		729,000
脱線機 三光、50L	2	825,000	1,650,000
血清分離機 ウェストファリアBTA3-00-104 220V	1		2,700,000
スピードクレーブ トミー SD-30ND、縦型、220V	1	62,000	1,240,000
炭酸ガス培養器 平沢 WJ-60 CO ₂ 調節機、ボンベ付	1		1,325,000
冷却遠心機 日立 05PR-22, 03ローター、チューブラック付	1		1,150,000

昭和60年度

品名および仕様	数量	単価(円)	金額(円)
連続高速冷却遠心機 12,000G, 8,000rpm 冷却装置付、滅菌可、220V	1		2,250,000
遠心機ローター 日立 RP-45T	1		1,650,000
コンプレッサー 日立-SRM、パッケージスクリュウタイプ 220V	1		1,420,000
スピードクレーブ SD-30ND, 220V	1		660,000
高速冷却遠心機 トミー RD-20-4, 220V No.17Nアングルローター付	1		2,703,000
乾熱滅菌機 東洋、FC-62TK	1		549,000
限外ろ過装置 アミコンCH-2PR、トランス付	1		857,000
自動製氷機 星崎、F120B	1		675,900
電気孵卵機 平沢 HD-14-9, 220V	1		1,129,900
回転培養セット 平沢 RAT-8, 220V RD-Cドラム8個付	1		1,149,000
恒温水槽 東洋、ET-80P, 220V	1		510,000
クリーンベンチ 日立 CCV-B11、両ドア、220V	1		1,886,000

6. 討議議事録 (英本文)

THE RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE AGRICULTURAL SURVEY TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THAILAND CONCERNING TECHNICAL CO-OPERATION PROJECT ON ANIMAL HEALTH IMPROVEMENT PROGRAMME IN THAILAND.

The Japanese Agricultural Survey Team, organized by the Japan International Cooperation Agency and headed by Dr. Munco Ogata visited Thailand from February 17 to March 2, 1977, for the purpose of formulating concrete co-operation plans for the Technical Co-operation Project on Animal Health Improvement Programme which will be carried out with the Diagnostic Laboratory Centre and the Foot-and-Mouth Disease Vaccine Production Centre as its cores.

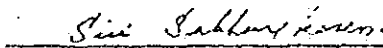
During its stay in Thailand, the Team exchanged views with the authorities concerned of the Government of Thailand on the necessary measures to be taken by both Governments to successfully implement the Technical Co-operation Project on Animal Health Improvement Programme. The Team also conducted necessary survey for the implementation of the Project.

As a result of the exchange of views and the survey, both parties agreed to recommend to their respective Governments to carry out the matters referred to in the attached Record of Discussions.

Bangkok, March 2, 1977



Dr. Munco Ogata
Head of the Japanese Agricultural
Survey Team
Japan International Cooperation Agency



Dr. Siri Subharnngkarn
Director-General
Department of Livestock Development

in the presence of



Mr. Wanchai Sirirattana
Deputy Director General
Department of Technical
and Economic Co-operation

RECORD OF DISCUSSIONS

- I. (1) To contribute to improvement of the animal health situation and its turn to livestock development in Thailand, both Governments will co-operate each other in implementing the Technical Co-operation Project on Animal Health Improvement Programme (hereinafter referred to as "the Project") with the Diagnostic Laboratory Centre and the Foot-and-Mouth Disease Vaccine Production Centre as its cores for the purposes of promoting the techniques of animal health, through animal health survey, diagnosis and the practical experiments for vaccine production.
- (2) The Project will be implemented in accordance with the Master Plan as stipulated in Annex I.
- (3) The Project will be implemented in accordance with the annual operational work plan to be formulated annually by the Joint Committee referred to in VIII.
- II. (1) In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Japanese authorities concerned will take necessary measures to provide at their own expense the services of the Japanese experts as listed in Annex II through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Co-operation Scheme.
- (2) The Japanese experts referred to in (1) above and their families will be granted in Thailand the privileges, exemptions and benefits no less favourable than those accorded to experts of third countries working in Thailand under the Colombo Plan Technical Co-operation Scheme.
- III. (1) In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Japanese authorities concerned will take necessary measures to provide at their own expense such equipment, machinery, implements, vehicles, tools, spare parts and other materials required for the implementation of the Project as listed in Annex III through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Co-operation Scheme.

(2) The articles referred to in (1) above will become the property of the Government of Thailand upon being delivered c.i.f. to the Thai authorities concerned at the ports of disembarkation, and will be utilized exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese adviser (or the Team leader) referred to in Annex II.

IV. (1) In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Japanese authorities concerned will take necessary measures to receive the Thai personnel engaged in the Project for technical training or study tour in Japan through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Co-operation Scheme.

(2) The Government of Thailand will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Thai personnel mentioned in (1) above through technical training and study tour in Japan may be utilized effectively for the implementation of the Project.

V. In accordance with laws and regulations in force in Thailand, the Government of Thailand will take necessary measures to provide at its own expense:

(1) the services of the Thai counterparts and other personnel as listed in Annex IV;

(2) buildings and incidental facilities as listed in Annex V;

(3) supply or replacement of equipment, machinery, implements, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided by the Japanese authorities concerned under III (1);

(4) suitably furnished housing accommodations for the Japanese experts and their families;

(5) transportation facilities and the grant of the travel allowance for the Japanese experts for the official travel within Thailand;

(6) expenses necessary for transportation within Thailand of the articles mentioned in III(1) as well as for the installation, operation and maintenance thereof;

(7) all running expenses necessary for the implementation of the Project;

(8) customs duties, internal taxes and any other charges, imposed in Thailand in respect of the articles referred to in III (1).

- VI. The Government of Thailand will be responsible for the administration and implementation of the Project, and the Japanese experts will provide primarily technical guidance and advice for the implementation of the Project.
- VII. The Government of Thailand shall undertake to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with, the discharge of their official functions in Thailand, except for those claims arising from willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.
- VIII. There will be close consultation between the Japanese experts and the officials concerned of the Government of Thailand for effective implementation of the Project. For this purpose, a Joint Committee will be established as specified in Annex VI.
- The Joint Committee will meet at least once a year.
- IX. For the successful implementation of the Project, both Governments will consult with each other when deemed necessary.
- X. The period of the technical co-operation mentioned in this Record of Discussions will be three (3) years from the date of signature and may be extended by mutual agreement between the authorities concerned of both Governments.

Annex I

Master Plan of the Project

Activities under the Project

1. Diagnostic Laboratory Centre

The following activities will be implemented in the Administrative Regions No. 8 and 9 with the Diagnostic Laboratory Centre in Tung Song, Nakhon Si Thammarat Province as its core, in close collaboration with the related Institutions (refer to the attached chart).

(1) Survey of the important animal diseases in the regions and diagnosis of animal diseases to be performed mainly in the veterinary fields of bacteriology, virology, pathology, parasitology and epidemiology

(2) Establishment of the channels of sample collection from the field, storage and distribution of veterinary biologics, extension of animal health knowledge and participation in the disease control scheme to be carried out by the Thai authorities concerned in the Regions

(3) Technical training in animal disease survey, diagnosis and control of animal diseases for technicians engaged in animal health activities, at the Centre and the related Institutions.

2. Foot-and-Mouth Disease Vaccine Production Centre

The following activities will be implemented with the Foot-and-Mouth Disease Vaccine Production Centre in Pak Chong, Nakhon Ratchasima as its core.

(1) The practical experiments for establishment of mass production techniques of foot-and-mouth disease vaccine and training of technicians at the Centre

(2) Diagnosis and identification of types of foot-and-mouth disease virus for the whole area of the country in collaboration with the related Institutions

Annex II

List of Japanese Experts

Category	Field	Organization
1. Adviser		DLD
2. Experts	Veterinary microbiology	DLC
	Veterinary pathology	DLC
	Epidemiology	DLC
	Vaccine production techniques of foot-and-mouth disease	FMDC
	Diagnosis of foot-and-mouth disease	FMDC

- Notes:
1. Short-term experts of the above-mentioned fields or others may be dispatched, when necessity arises.
 2. The Adviser will coordinate the activities of the Project and may advise about animal health improvement in Thailand.
 3. A Team Leader will be nominated by JICA among the experts.
 4. DLD: Department of Livestock Development
 DLC: Diagnostic Laboratory Centre
 FMDC: Foot-and-Mouth Disease Vaccine Production Centre
 JICA: Japan International Cooperation Agency

Annex III

List of the articles to be provided by
the Government of Japan

1. Equipment, machinery, implements and spare parts for disease survey, diagnosis and control of animal diseases
2. Veterinary Biologics and medicines including disinfectants for disease survey, diagnosis and control of animal diseases, and treatment
3. Equipment, machinery, implements, spare parts and other materials for the practical experiment work of vaccine production and diagnosis of foot-and-mouth disease
4. Teaching materials including audio-visual aids
5. Vehicles
6. Other necessary equipment, machinery, tools and materials to be mutually agreed upon.

Annex IV

List of Thai Counterpart Officials and
Other Personnel

Category	Field	Organization
1. Project Director		DLD
2. Counterpart Officials		
	Veterinary Bacteriology	DLC
	Veterinary Virology	DLC
	Veterinary Pathology (including Veterinary Parasitology)	DLC
	Epidemiology	DLC
	Vaccine production techniques of foot-and-mouth disease	FMDC
	Diagnosis of foot-and-mouth disease	FMDC
3. Clerical and service employecs		
4. Labourers		

Annex V

List of Buildings and Facilities

1. Department of Livestock Development
Office for the Japanese adviser.
2. Diagnostic Laboratory Centre
 - (1) Main building (including laboratories, autopsy room etc.)
 - (2) Experimental animal shed
 - (3) Garage
 - (4) Other necessary buildings and facilities
3. Foot-and-Mouth Disease Vaccine Production Centre
 - (1) Main Laboratory
 - (2) Factory
 - (3) Power house
 - (4) Shed for challenged animals
 - (5) Open type animal shed
 - (6) Breeding house of laboratory animals
 - (7) Aluminium hydroxide gel plant
 - (8) Garage
 - (9) Other necessary buildings and facilities

Note: The existing buildings and facilities of the Foot-and-Mouth Disease Laboratory will be utilized for the work mentioned in 2 of Annex I before completion of the Foot-and-Mouth Disease Vaccine Production Centre.

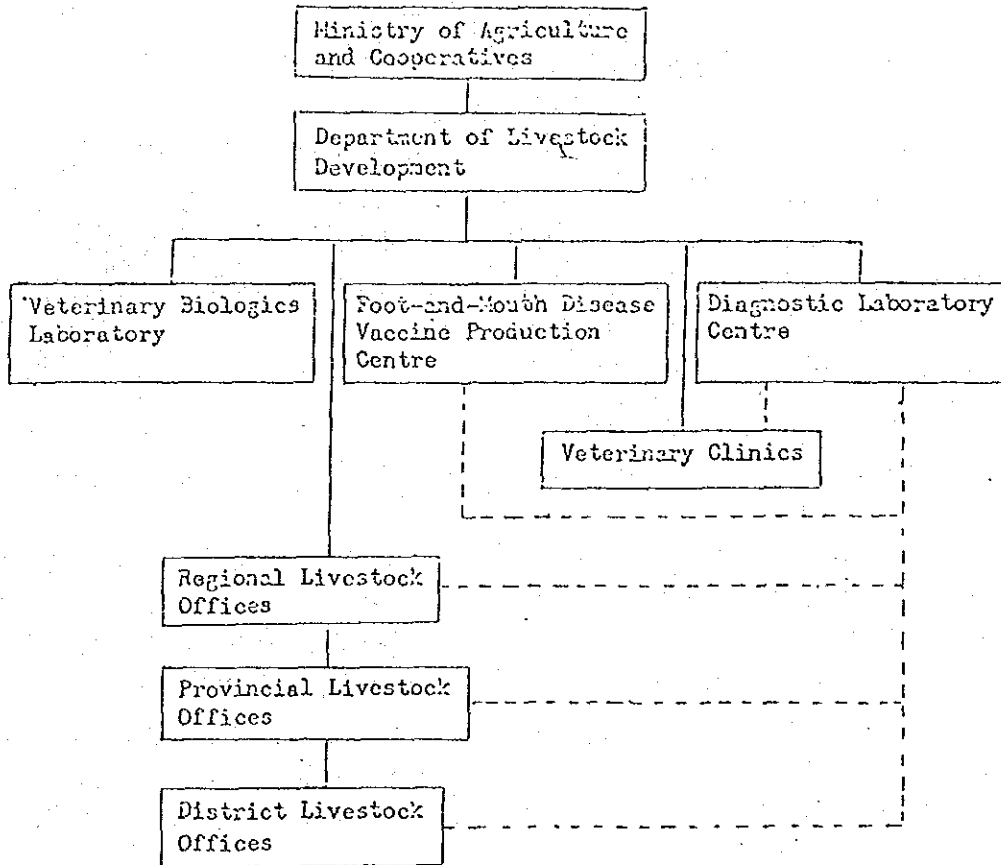
Annex VI

Composition of the Joint Committee

Chairman	Director-General of DLD
<u>Japanese side</u>	<u>Thai side</u>
1. Adviser	1. Project Director
2. Team Leader	2. Director of Veterinary Biologics Division of DLD
3. Expert(s) designated by the Team Leader	3. Director of Veterinary Research Division of DLD
4. Representative of JICA	4. Representative of Organizations concerned

Note: An official of the Embassy of Japan may attend the meeting of the Joint Committee as an observer.

(Attached chart) The related institutions of the Project



Notes: _____; Administrative channel
 - - - - -; Technical linkage channel

SUPPLEMENTARY NOTES TO THE RECORD OF DISCUSSIONS
CONCERNING ANIMAL HEALTH IMPROVEMENT PROGRAMME

Article II (1) "Japanese Experts"

a. Foot-and-Mouth Disease Vaccine Production Centre (FMDC)

Two (2) experts, one for suspension cell culture techniques and one for serology, will be assigned around July 1977 to the FMDC for commencing the necessary preparatory work of the Centre. The present assignment of Japanese staff from the Tropical Agricultural Research Centre might be discontinued by the end of June 1977.

b. Diagnostic Laboratory Centre (DLC)

Three (3) to four (4) experts in the fields of microbiology, pathology and epidemiology will be assigned around October 1977. Necessary arrangement for operation of the Centre by Thai side will be terminated by September 1977. A field of parasitology will be covered by the expert of pathology and that of microbiology may be divided into two (2) units; bacteriology and virology.

c. The term of office of Japanese experts will be continued in principle for three (3) years. However, some of the experts will relay his position to another new one during the period of cooperation prescribed in the Record of Discussions.

d. Experts will be requested to have experience in his field for not less than five (5) years.

Article III (1) "Provision of equipment etc."

a. Equipment, materials etc. listed in Annex III will be provided from Japan in each three (3) year to promote the Project.

b. In 1977, however, provision of those will be concentrated on the work at the DLC in Tung Song, and some of them for the first implementation of activity will be delivered by the end of September of the year (estimated value; about 50,000,000 yen or 173,000 US\$).

c. For this purpose, the list of equipment etc. to be attached to the so-called A4 form will be forwarded from the Department of Livestock Development to the authorities concerned through the DTEC at the earliest stage.

Article IV (1) "Training and Study tour of Thai Staff in Japan"

In connection with the activities of the DLC,

- a. Two (2) staff will be invited to Japan for about six (6) month training each three year. One (1) may participate in the group training course of Animal Health, while another will participate in the individual course.
- b. The staff to be appointed as head of the DLC will be sent to Japan for the study tour for about one (1) month to acquire the general knowledge and information on administration and operation of the Centre, before September 1977.

In connection with the activities of the FMDC,

- a. The following training programme will be considered during a period of cooperation.
- b. First priority will be given to training on Aluminum gel production.

(Training programme for staff of the FMDC)

a) Vaccine production;

Aluminum gel production	One person	4-6 months
General technique in virology	Two	6 months for each
Technique in cell culture with the emphasis on mass production	Two	6 months for each

b) Diagnosis;

Immunology	One.	6 months
Production and health of laboratory animals	One	6 months

c) Miscellaneous;

Maintenance and repair of scientific apparatus and electrical work	One	6 months
---	-----	----------

Bangkok
March 2, 1977



Made by Dr. Muneo Ogata
Leader of the Agricultural Survey
Team

JICA